

## MEGURI2040 世界初、複数自動運航船・同時運航（記者発表） 船員の命を守る船舶、安全運航技術に期待

記者発表会・松浦満晴組合長の来賓あいさつ

これまで進められている「MEGURI2040」プロジェクトにより、海運業界は「自動運航」という歴史的な転換点に立っております。

私たちがこの技術に期待するのは「船員の厳しい労働環境の抜本的な改善」です。

これまでの船員は、厳しい自然を相手とし、急激な気象海象の変化に即応し、特に神経をすり減らす、船舶の幅狭海域・狭い水道の航行や、深夜の見張り、そして離着岸作業などをこなしてきており、これらは長年の船員経験の積み重ねによる知識の蓄積と、努力によって支えられてきておりました。

しかし、深刻な人手不足が続く今、過密なスケジュールのなかでの運航や、荷役作業などの運航業務以外の作業による疲労の蓄積もあり、船員一人一人の肩にかかる加重は限界に達しつつあります。

このような背景のなか自動運航技術の開発が進められてきており、この技術の進展によるデータの蓄積とその活用により、船員への後方支援や状況認識の高度化が進み、これまで人に大きく依存していた監視や判断などを高度なセンサーなどによって、船舶の幅狭海域・狭い水道の航行や視界不良時の見張りをサポートし、離着岸等をアシストすることで、事故防止にも大きく貢献することが期待されます。

一方で、海上では常に予測不能な事態が起きる可能性があり、システムの不具合、通信の途絶、急激な気象海象の変化、機械が判断不能に陥ったときには、人によってリスク回避を行わなければなりませんし、自動運航技術を開発することによって、人が減らせるといような安易な方向で開発が進められるべきではありません。

この自動運航技術は、船員の仕事を奪うものではなく、船員の労務負担を減らし、船員を作業から解放することによって、精神的・肉体的負担を劇的に軽減させ、船員を支え、より高度なマネジメント業務や管理に専念することを可能にすると考えております。

さらなる自動運航技術の開発・導入にあたっては、常に人を中心に考え、技術が人を助け、現場を支える船員の誇りと安全が置き去りにされることなく、最新技術が船舶の安全運航と船員の命を守り、海上での生活をより豊かにし、船員とそのご家族に真の安心をもたらしてくれることを願っております。

「海員だより」